

環境活動レポート



対象期間 平成27年4月1日 ~ 平成28年3月31日
発行日 平成28年9月30日



株式会社
アール・アンド・イー

本社：北海道登別市富浦町223-1

TEL：0143-80-2233

FAX：0143-80-2232

1. 事業所名及び代表者

事業所名 株式会社アールアンドイー
代表者氏名 北山 茂一

2. 所在地

本社 北海道登別市富浦町 2 2 3 - 1
登別事業所 北海道登別市富浦町 2 2 3 - 1
札幌事業所 北海道北広島市大曲工業団地 4 - 4 - 1

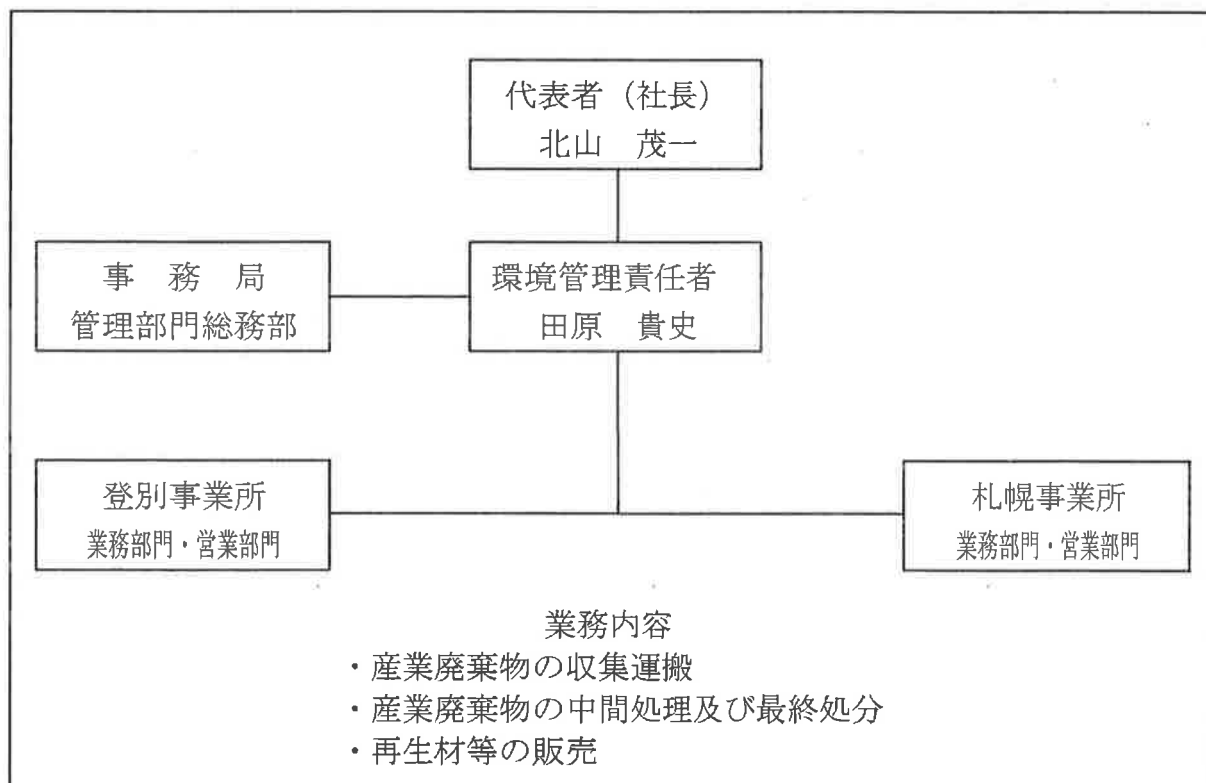
3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先および実施体制

環境管理
責任者氏名 田原 貴史

事務局 牧夕貴、大場愛子

住所 北海道登別市富浦町 2 2 3 - 1

連絡先 電話：0143-80-2233
FAX：0143-80-2232
E-MAIL：ea21@rande.co.jp



4. 事業内容の概要

産業廃棄物処理業（収集運搬、中間処理、最終処分）及び再生材等の販売
※エンジニアリング事業部、建材事業部、金属事業部については、四年後を目途に拡大する予定です。

5. 事業の規模（廃棄物の受入量、従業員数、事業所の延床面積等）

活動規模	単位	2013年度	2014年度	2015年度
産業廃棄物の受入量	t	88,922.18	75,240.82	74,138.40
売上高	百万円	1,079	1,164	939
従業員数	人	37	41	42
床面積	m ²	403.28	403.28	403.28

6. 環境方針

環境理念及び方針

・環境理念

株式会社アールアンドイーは産業廃棄物の収集運搬及び処分業者として、循環型社会の形成に向けて事業活動を行い、環境経営システムの確立と継続的な運用を行い、環境負荷を低減するために努めます。

・環境方針

- (1) 環境関連の法律、規制及び社内規定等を遵守し環境保全に努めます。
- (2) 事業活動に伴う環境負荷を常に意識し、積極的に環境への取組及び継続的な環境負荷低減活動を行います。
- (3) 全従業員に対して環境理念・方針及び環境に関する教育を実施し、環境保全の意識向上を図ります。
- (4) 省エネルギーの製品やリサイクル製品の積極的な購入に努めます。

H25年4月1日

株式会社アールアンドイー
代表取締役 北山茂一

7. 環境目標とその実績

7. 1 環境への負荷の状況

当社では「産業廃棄物処理業者向けガイドライン 2009 年版」における「環境への負荷チェックリスト」をもとに評価を行った。結果は以下のとおりである。

環境への負荷チェックリスト

		単位	H25 年	H26 年	H27 年	
	購入電力	MJ	8,242,828.54	8,499,253.92	8,443,104.96	
総エネルギー投入	化石燃料	灯油	MJ	726,513.20	694,125.45	911,723.42
		LPG	MJ	10,484.77	13,009.83	13,404.91
		ガソリン	MJ	832,372.20	836,904.80	968,381.34
		軽油	MJ	10,268,943.10	10,922,483.98	11,214,862.96
		合 計	MJ	11,838,313	12,466,524	13,108,373
水資源投入量	上水道	m ³	2,672	3,269	2,084	
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	購入電力	kg-CO2	576,914.14	594,861.31	580,624.51
		灯油	kg-CO2	49,330.24	47,129.87	61,906.02
		LPG	kg-CO2	689.76	777.98	801.61
		ガソリン	kg-CO2	55,852.16	56,156.31	64,978.39
		軽油	kg-CO2	705,476.39	750,374.64	770,461.09
		合 計	kg-CO2	1,388,262.72	1,449,300.13	1,478,771.62

※H27 年度以降の CO2 排出係数は 0.676 kg-CO2/KWH（北海道電力）を使用

7. 2 環境目標及び結果

エコアクション21の設定目標とH27年度の実績と比較を行う。

環境目標の設定

エネルギー（二酸化炭素排出量削減）電気・灯油・軽油

二酸化炭素排出量・・・目標値 19.26 kg-CO₂/t

H27年度実績値 19.95 kg-CO₂/t

その他

一般廃棄物排出抑制・・・目標 現状維持 (1,666 kg)

H27年度実績値 1,873 kg

水道水の総排水量・・・目標 現状維持 (2,096 m³)

H27年度実績値 2,084 m³

※前年度との比較

	単 位	H26 年度	H27 年度	実 績	
				対前年比	増減率
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	1,449,300	1,478,772	102.03%	+2.03%
電気使用量	KWh	864,624	858,912	99.33%	-0.67%
灯油使用量	L	18,913	24,843	131.35%	+31.35%
軽油使用量	L	285,928	293,583	102.67%	+2.67%
一般廃棄物排出量	t	1.835	1.873	102.07%	+2.07%
水資源投入量	m ³	3,269	2,084	63.75%	-36.25%

※H27年度以降のCO₂排出係数は0.676 kg-CO₂/KWh（北海道電力）を使用

グリーン購入

適合品目割合・・・目標 15%

備品類購入実績

登別事業所 103品目

札幌事業所 61品目

内) グリーン購入法適合品目

登別事業所 26品目

札幌事業所 6品目

H27年度実績値 19.5%

重機燃費向上

10あたりの処理量・運搬量・・・目標 処理量 0.408 t/ℓ
 運搬量 0.0816 t/ℓ

H27年度 受入量及び運搬量

登別事業所 受入量 59,686.96 t
 運搬量 3,880.06 t
 札幌事業所 受入量 14,451.44 t

H27年度 給油量

登別事業所 重機類 169,435.00
 車両類 50,681.80
 札幌事業所 重機類 73,466.00

H27年度 実績値

登別事業所 重機類 0.352 t/ℓ
 車両類 0.077 t/ℓ
 札幌事業所 重機類 0.197 t/ℓ

全 社 重機類 0.305 t/ℓ
 車両類 0.077 t/ℓ

8. 中長期目標の設定

受入量に左右されないようにkg-CO2/tを使用して目標値を設定したが、引き続きH22～24年度の平均値を基準値とする。

活動内容	排出量 (kg)	受入量 (t)	基準値	H28年度	中長期目標 (H29年まで)
二酸化炭素	3,191,583	197,815	16.13 kg-CO2/t	11.6%増 19.00	16%増 18.71 kg-CO2/t
一般廃棄物の抑制	—	—	1,666 kg	増減0 1,666 kg	1%削減 1,649 kg
水道水の総排出量	—	—	2,096 m ³	増減0 2,096 m ³	3%削減 2,033 m ³
グリーン購入	—	—	153品目中 20品目 13.07%	18%	購入品目の20%
重機燃費向上	—	—	重機 0.40t/ℓ 車両 0.08t/ℓ	2%増	5%増
化学物質使用削減	—	—	—	—	適正管理と使用量の把握

9. 主要な環境活動計画の内容

(1) 省エネルギー（二酸化炭素排出量削減）電気・灯油・軽油

・電気

- ①冷房は室内温度28℃を目安とする。使用していない室は冷房をとめる。
- ②使用していない室、トイレの照明は消灯する。
- ③昼休みは、業務上支障がない限り室内の照明を消灯する。
- ④複写機、FAX、パソコンは待機時に省エネモードに設定する。
- ⑤長時間、席を離れる場合はパソコンの電源を切る。
- ⑥業務上支障がなければ電源コンセントからプラグを抜く等をし、待機電力の削減に努める。

・灯油

- ①暖房は室内温度22℃を目安とする。使用していない室は暖房をとめる。

・ガソリン及び軽油

- ①重機及び車輛のエンジンのかけっぱなしはしない。
- ②急発進・急加速等の“急”のつく操作は行なわない。
- ③重機及び車輛の始業点検及び定期点検を確実に行う。
- ④法定速度を遵守する。
- ⑤重機のエコモード運転の徹底

・水道

- ①蛇口をこまめに閉める。

(2) 一般廃棄物の適正管理

各事業所において、部署別に別紙排出量チェック表のとおり分別し、廃棄量を把握する。

(3) グリーン購入

原則として運用手順で設定しているグリーン購入ガイドラインに則り、購入をすること。

(4) 化学物質使用削減量

該当する施設は管理型最終処分場の排水処理施設となるが、排水を処理するために使用している薬品類を削減するということは、適正処理をすることが出来なくなる可能性もあるので、削減目標は設定せず使用量を把握するだけに留める。

10. 環境活動の取組結果の評価

平成26年度と比較した平成27年度におけるエネルギー増減率は

二酸化炭素排出量	+2.03%
電気使用量	-0.67%
灯油使用量	+31.35%
軽油使用量	+2.67%

となった。

目標として設定した廃棄物受入量1tあたりの二酸化炭素排出量は、19.95 kg-CO₂/tとなり、基準値と比較すると24%増となり、目標値に対しては、3.6%の微増となった。

電気使用量の減少に関しては、複数の要因が挙げられるが、特に廃棄物の受入量の低下に伴い照明器具の必要な時間帯での作業が自然減したこと、さらにエコアクション21の活動が従業員に浸透した事による効果が挙げられる。

灯油使用量は、冬季期間のトラックスケールの凍結により、廃棄物の計量数値が安定せず、防凍措置の為にヒーターを使用した事、廃棄物回収用の鉄製カゴ製作小屋で長時間暖房器具を使用した事、また安定型最終処分場の新設に伴いコンクリート養生に暖房器具を使用した事により灯油使用量が増加したと考えられる。

軽油使用量は、札幌事業所から登別事業所への廃棄物の運搬が増えた為、増加する事になった。また、廃棄物の受入量は低下したが、中間処理量が前年度より増加しているので、中間処理に係る作業が増えた事も軽油の使用量の増加として考えられる。

一般廃棄物の適正管理と排出の抑制に関しては、今年も基準値を上回る結果となったが、各事業所、各部署の排出量と分別の管理は定着しているので、引き続き排出抑制の目標を達成できるように推進して行きたい。

水資源の投入量については、目標を達成することが出来た。更なる環境保全の為に中長期目標を達成できるように引き続き、活動を推進して行きたい。

1 1. 環境関連法規等の遵守状況の確認と及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反があることは認められませんでした。また、行政指導に関わる違反や訴訟等もありません。

1 2. 代表者による全体の取り組み状況の評価及び見直しの結果

平成27年度は、安定型処分場の新設に伴いエネルギー使用量が増加した結果になった。管理体制を変えるなど、改めて環境保全の意識を高める努力をしてもらいたい。業務内容によっても容易に目標を達成できない事もあるが、社員一人一人が環境負荷の低減を意識し、日々地道に取り組みをしてもらいたい。